

特別会計は、特定の事業を行う場合や特定の収入により事業を行う場合、その事業に係る経理をほかの会計と区別する必要があるため、法律や条例により設置しています。

国民健康保険特別会計

収入	15億8846万円
支出	15億2468万円

主な収入は、保険税2億4845万円、県の補助金10億7890万円、一般会計からの繰入金1億6571万円です。主な支出は、医療費10億4583万円、国保事業費納付金4億12万円などです。

国民宿舎特別会計

収入	1億3857万円
支出	1億3827万円

主な収入は、指定管理者納入金2507万円、一般会計からの繰入金9896万円です。主な支出は、機械設備等改修工事費2219万円、企業債元利償還金9565万円です。

後期高齢者医療特別会計

収入	2億3868万円
支出	2億3119万円

主な収入は、加入者が納めた保険料1億6078万円、一般会計からの繰入金6912万円です。主な支出は、後期高齢者医療広域連合納付金2億1616万円です。

公共下水道事業会計

収益的収入	7億4719万円
収益的支出	6億9521万円
資本的収入	4476万円
資本的支出	2億2850万円

主な収益的収入は、下水道使用料3億4305万円、一般会計からの負担金と補助金1億5477万円です。主な収益的支出は、^{かんきょ}管渠やポンプ場、浄化センターの費用2億397万円、企業債利息2499万円です。

主な資本的支出は、浄化センター他ストックマネジメント基本構想策定委託、企業債元金償還金など2億2850万円です。

給食センター特別会計

収入	1億3481万円
支出	1億3276万円

主な収入は、給食費収入5897万円、一般会計からの繰入金7373万円です。主な支出は、給食材料費5886万円、そのほかは、委託料、光熱水費、人件費などです。

モーターボート競走事業会計

収益的収入	1100億7289万円
収益的支出	1075億2067万円
資本的収入	82万円
資本的支出	16億5724万円

主な収益的収入は、芦屋本場開催の発売金などの開催収入が635億7117万円、他場開催の発売金などの場外発売受託事業収入が464億5037万円です。主な収益的支出は、売り上げに伴う払戻金や交付金、選手賞金などの開催費586億858万円、他場開催の払戻金などの場外発売受託事業費450億959万円です。

主な資本的支出は、企業債繰上償還金などの企業債償還金14億1531万円です。

芦屋中央病院貸付金特別会計

収入	2億5802万円
支出	2億5802万円

芦屋中央病院の町債の借り入れや、借り入れた町債の返済を行うための会計です。

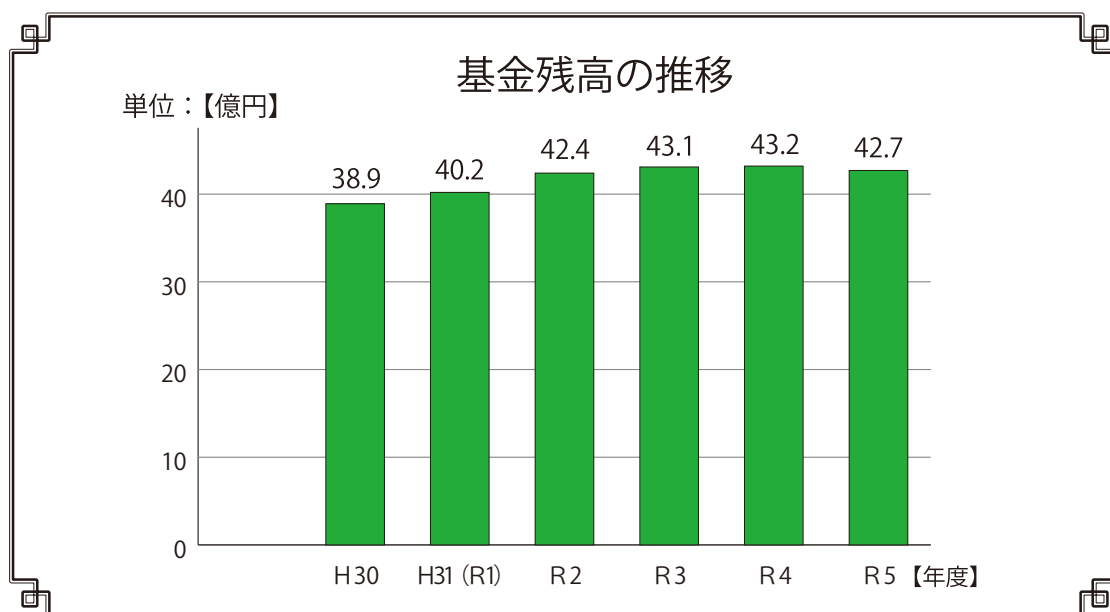
主な収入は、医療機器整備のために借り入れた町債8940万円です。主な支出は、町債の返済費用1億6862万円です。

今後5年間の財政運営の見通し

(財政シミュレーション)

財政シミュレーションとは、今後の財政運営がどうなっていくかを平成30年度決算と令和元年度決算見込額の数値を参考に、一定の設定条件のもと作成したものです。

このなかで、町の貯金にあたる「基金」がどのように推移していく見込みであるか説明します。



■5年後の基金残高見込みは40億円をキープ

基金残高の推移をみると、多少の増減はあるものの、令和5年度末の基金残高は40億円をキープする見込みです。

■昨年度シミュレーションとの比較

今回作成した財政シミュレーションと昨年度作成したものを比較してみると、令和5年度末の基金残高は約700万円増加しています。

増額の主な要因として、モーターボート競走事業収入の増加などが挙げられます。

■芦屋町の基金残高は比較的多い

平成30年度の標準財政規模(※1)に対する基金残高の割合は、105%です。

福岡県内60市町村で100%を超えているのは23市町村なので、平成30年度末時点の芦屋町の基金残高は比較的多いといえます。

基金残高が多い理由のひとつとして、モーターボート競走事業収入が挙げられ、この収入は令和5年度まで継続して見込んでいます。このため、今後も100%を超える見込みで推移することから、引き続き安定的な財政運営ができるものと判断しています。

(※1) 標準財政規模とは、地方公共団体の一般財源の標準的な規模のことで、経常的に収入しうる一般財源の大きさを表します。

